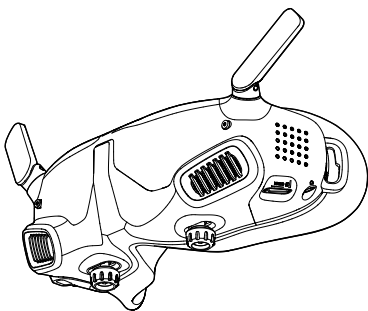


DJI GOGGLES 2

ユーザーマニュアル

v1.0



2022.11

目次

本マニュアルの使用方法	4
製品概要	7
はじめに	8
概要	9
準備	12
ゴーグルの準備	13
電源	14
モーションコントローラーの準備	16
アクティベーション	17
リンク	18
クリアな視界を得るには	19
アイグラスフレームの使用	21
DJI Goggles 2	24
タッチパネルの使用	25
ゴーグルのホーム画面とメニュー	27
機体の切り替え	35
ヘッドトラッキング機能の使用	36
ワイヤレス ストリーミング機能の使用	36
DJI モーションコントローラー	37
機体の制御	38
ジンバル&カメラの操作	41
モーションコントローラーのアラート	41
モーションコントローラーのキャリブレーション	42
ファームウェア更新	43
メンテナンス	46
アンテナの交換	47
フォームパッドの交換	47
レンズの清掃とメンテナンス	49

付録	50
仕様	51
アフターサービス情報	54

本マニュアルの使用方法

トピックに移動

目次の全トピック一覧が表示されます。トピックをクリックすると、そのセクションに移動します。

キーワードの検索

「バッテリー」や「取り付け」などのキーワードを検索することでトピックを探することができます。Adobe Acrobat Readerを使用して本書をお読みの場合、WindowsではCtrl+F、MacではCommand+Fを押して検索を開始できます。

本書の印刷

本書は高解像度印刷に対応しています。

凡例

 警告

 重要

 ヒントとコツ

 参考

ご使用の前にお読みください

DJI™は、DJI公式サイトやDJI Flyアプリ上でさまざまなチュートリアル資料を提供しています。DJI公式サイトにあるチュートリアルビデオを全て視聴し、同梱

の安全ガイドラインをお読みの上、このユーザーマニュアルをよくお読みいただき、本製品の正しく安全な使用方法を理解してください。

- ⚠ • 5.8 GHzは、一部の地域では対応していません。この周波数帯域は、これらの地域で機体がアクティベーションまたはDJI Flyに接続されると自動的に無効になります。現地の法律および規制を、順守してください。
- ゴーグルを使用すると、目視内の範囲 (VLOS)での飛行という要件は満たされません。いくつかの国と地域では、補助者を設け、空域や周辺に危険がないか監視してもらう必要があります。ゴーグルの使用時は現地の規制に必ず従ってください。(日本国内において屋外でゴーグルを使用しての飛行は目視外飛行になり、航空局からの飛行の許可・承認を取得する必要があります。)

チュートリアルビデオを視聴



<https://www.dji.com/goggles-2/video>

DJI Flyアプリのダウンロード



<https://www.dji.com/goggles-2/downloads>

DJI ASSISTANT™ 2（一般向けドローン用）のダウンロード



<https://www.dji.com/goggles-2/downloads>

* 本ユーザーマニュアルは、DJI Goggles 2とDJI Goggles 2 Motionコンボの両方の製品を対象としています。本マニュアルで扱われているDJI モーションコントローラーは、DJI Goggles 2 Motionコンボに同梱されているものを指します。

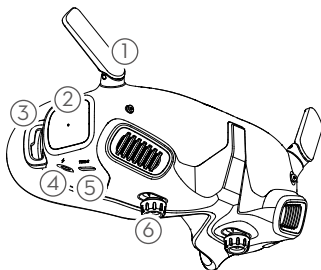
製品概要

はじめに

DJI Goggles 2には、高性能デュアルディスプレイを搭載し、DJIの機体との超低遅延の映像伝送を実現し、リアルタイムFPV（一人称視点）での空撮映像を体験できます。ワイヤレス ストリーミング機能ではスマートフォンやパソコンからのライブ映像をゴーグル画面に映し出し、没入感あふれる視覚体験を提供します。DJI Goggles 2は、ヘッドトラッキング機能に対応しています。この機能により、頭部の動きに合わせて機体とジンバルを制御できます。DJI モーションコントローラーとともに使用すると、機体とジンバルカメラを自由に制御でき、さまざまなシナリオでの撮影ニーズを満たすことができます。タッチパネルにより、画面を見ながら片手だけで簡単に操作を完了できます。より快適な体験を実現できるように、本ゴーグルは視度調整に対応しているので、使用中は眼鏡を必要としません。

概要

DJI Goggles 2



1. アンテナ

2. タッチパネル

3. ヘッドバンド取付口

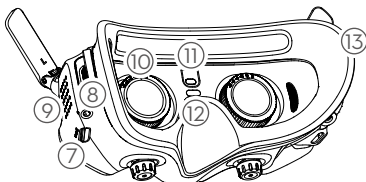
4. 電源ポート

付属の電源ケーブル（USB-C）を使用して、ゴーグルの電源ポートをゴーグルのバッテリーに接続します。

5. USB-Cポート

6. IPD（瞳孔間距離）スライダー／度数調整ノブ（以後、「ノブ」と表記）

左右に動かすと、適切な配置で映像が見れるようにレンズ間の距離が調節されます。ノブを回すと、視度を -8.0 D ～ $+2.0\text{ D}$ まで調整できます。



7. microSDカードスロット

8. 3.5 mmオーディオポート

9. LEDドットマトリックス ディスプレイ

10. レンズ

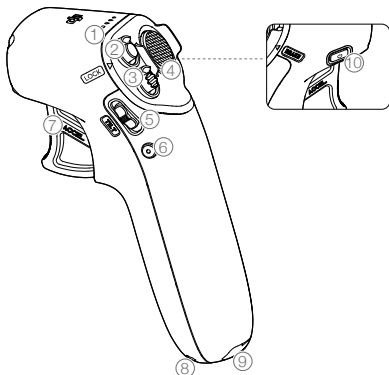
11. 近接センサー

ゴーグルの装着を検知し、自動的に画面のオン／オフを行います。

12. リンクボタン

13. フォームパッド

DJI モーションコントローラー



1. バッテリー残量LED

2. ロックボタン

2回押すと、機体のモーターを起動します。長押しすると、機体が自動で離陸し、約1.2 mまで上昇し、その場でホバリングします。

機体がホバリング中に長押しすると、機体を自動着陸させ、モーターを停止します。

3. モードボタン

1回押すと、ノーマルモードとスポーツモードが切り替わります。

4. ブレーキボタン

1回押すと、機体にブレーキがかかり、その場でホバリングします（GPSまたは下方ビジョンシステムが利用可能な場合のみ）。もう1回押すと、ブレーキは解除されます。

長押しすると、RTHを起動します。再度押すと、RTHはキャンセルされます。

5. ジンバル チルトスライダー

上下に押してジンバルのチルトを調整します。

6. シャッター／録画ボタン

1回押すと、写真を撮影するか、録画を開始／停止します。長押しすると、写真モードと動画モードを切り替えます。

7. アクセル

押すと、ゴーグル上でサークルが表示されている方向へ機体が飛行します。強く押し込むと、加速します。離すと、停止してホバリングします。

8. ストラップ取付口

9. USB-Cポート

10. 電源ボタン

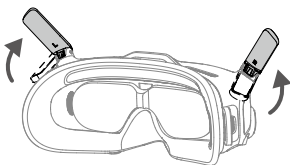
ボタンを1回押すと、現在のバッテリー残量を確認できます。ボタンを1回押し、次に2秒間長押しすると、モーションコントローラーの電源オン／オフを切り替えられます。

準備

ゴーグルの準備

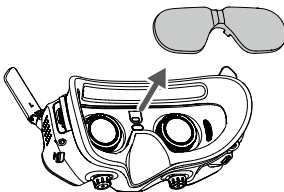
取り付け

1. アンテナを展開します。



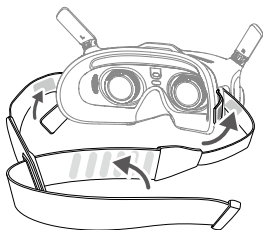
⚠ ゴーグルを使用していない時は、損傷を防ぐために、アンテナを折りたたんでください。アンテナが偶発的に損傷したときは、DJIのアフターサービスに連絡して、新品を購入して交換してください。交換手順については、「[アンテナの交換](#)」を参照してください。

2. 画面プロテクターを取り外します。



⚠ 使用後は画面プロテクターを再度取り付けてください。レンズを保護し、直射日光によるダメージを防ぎます。

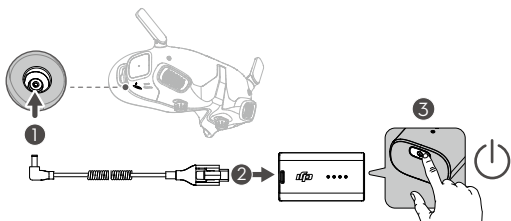
3. ゴーグルにヘッドバンドを取り付けます。



電源

付属の電源ケーブルを使用して、ゴーグルの電源ポートをゴーグルのバッテリーに接続します。

- ⚠️ 付属のDJI Gogglesバッテリーのみを使用してください。DJI製以外のバッテリーは使用しないでください。
- ゴーグルバッテリーを他のモバイル端末への給電には使用しないでください。



電源ボタンを1回押すと、現在のバッテリー残量を確認できます。

ボタンを1回押し、次に2秒間長押しすると、ゴーグルの電源がオンまたはオフになります。

バッテリー残量が低下している場合、USB PD規格対応充電器でゴーグルのバッテリーを充電することをお勧めします。



バッテリー残量LEDは、充電中および使用中に残量を表示します。

📖 LEDのステータスは以下のように定義されます：

● LED点灯

☀ LED点滅

○ LED消灯

バッテリー残量LED	バッテリー残量
○ ○ ○ ○	バッテリー残量 > 88%
○ ○ ○ ☀	75% < バッテリー残量 ≤ 88%
○ ○ ○ ○	63% < バッテリー残量 ≤ 75%
○ ○ ☀ ○	50% < バッテリー残量 ≤ 63%
○ ○ ○ ○	38% < バッテリー残量 ≤ 50%
○ ☀ ○ ○	25% < バッテリー残量 ≤ 38%
○ ○ ○ ○	13% < バッテリー残量 ≤ 25%
☀ ○ ○ ○	0% < バッテリー残量 ≤ 13%

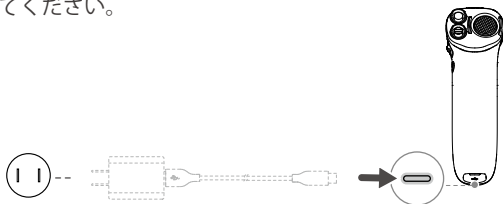
下の表は、充電中のバッテリー残量を示しています。

バッテリー残量LED	バッテリー残量
☀ ☀ ○ ○	0% < バッテリー残量 ≤ 50%
☀ ☀ ☀ ○	50% < バッテリー残量 ≤ 75%
☀ ☀ ☀ ☀	75% < バッテリー残量 < 100%
○ ○ ○ ○	充電完了

モーションコントローラーの準備

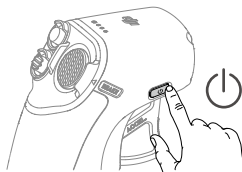
電源ボタンを1回押すと、現在のバッテリー残量を確認します。

バッテリー残量が低下している場合、使用前に充電してください。



⚠ USB PD規格対応充電器には対応していません。

ボタンを1回押し、次に2秒間長押しすると、モーションコントローラーの電源オン／オフを切り替えられます。



📖 バッテリー残量LEDは、充電中および使用中に、バッテリーの残量を表示します。LEDのステータスは以下のように定義されます：

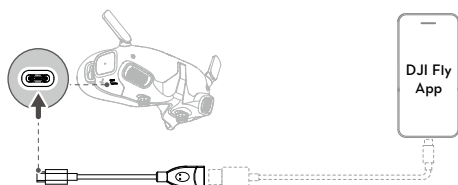
● LED点灯。

☀ LED点滅。

○ LED消灯。

バッテリー残量LED	バッテリー残量
○ ○ ○ ○	バッテリー残量 > 80%
○ ○ ○ ●	75% < バッテリー残量 ≤ 80%
○ ○ ○ ○	63% < バッテリー残量 ≤ 75%
○ ○ ● ○	50% < バッテリー残量 ≤ 63%
○ ○ ○ ○	38% < バッテリー残量 ≤ 50%
○ ● ○ ○	15% < バッテリー残量 ≤ 38%
○ ○ ○ ○	8% < バッテリー残量 ≤ 15%
● ○ ○ ○	0% < バッテリー残量 ≤ 8%

アクティベーション



初めて使用する前に、デバイスのアクティベーションを行い、ファームウェアを更新してください。機体、ゴーグル、モーションコントローラーの電源を入れます。すべてのデバイスがリンクされていることを確認します。ゴーグルのUSB-Cポートとモバイル端末を接続し、DJI Flyアプリを起動します。その後、プロンプトの指示に従ってアクティベーションを行います。アクティベーション中は、モバイル端末がインターネットに接続していることを必ず確認してください。

- 💡 • USB-AからUSB-Cに変換して使用する場合には、付属のUSB-C OTGケーブルを使用して接続してください。


💡・ゴーグルは、標準USB-CプロトコルとMFI認証済みLightningケーブルのみに対応しています。標準ケーブルではないケーブルには、対応していません。接続してもデバイスが反応しない場合、別のデータケーブルを使用してみてください。

リンク


まず機体とゴーグルをリンクし、続いてモーションコントローラーをリンクする必要があります。



1. 機体、ゴーグル、モーションコントローラーの電源を入れます。
2. ゴーグルのリンクボタンを押します。ゴーグルからビープ音が連続して鳴り始めます。
3. バッテリー残量LEDが順に点滅し始めるまで機体の電源ボタンを長押しします。
4. リンクが完了すると、機体のバッテリー残量LEDが点灯してバッテリー残量が表示されます。ゴーグルのビープ音が止まり、映像伝送が正常に表示できるようになります。

 ゴーグルが機体への接続に失敗した場合、ゴーグルのリンクボタンを再度押して、プロセスを中止してください。ゴーグルをモバイル端末に接続し、DJI Flyアプリを実行し、[接続ガイド]を選択して、画面上の指示に従いリンク作業を行ってください。正しい機体を選択されているか確認してください。間違った機体を選択するとリンクできません。

5. バッテリー残量LEDが順に点滅し始めるまで機体の電源ボタンを長押しします。
6. ビープ音が連続して鳴り、バッテリー残量LEDが順に点滅するまで、モーションコントローラーの電源ボタンを長押しします。
7. リンク作業が正常に終了すると、モーションコントローラーのビープ音は止まり、機体とモーションコントローラー両方のバッテリー残量LEDが点灯してバッテリー残量が表示されます。

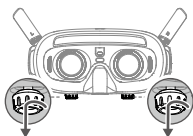
 飛行中、機体は1台の送信機デバイスでのみ制御できます。機体が複数の送信機デバイスとリンクされている場合には、飛行前に他の送信機デバイスの電源を切っておいてください。

クリアな視界を得るには

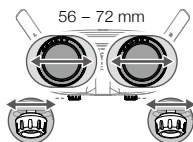
デバイスの電源が入り、伝送された映像が表示されたら、ゴーグルを装着し、快適にフィットするまでヘッドバンドを調整します。次に、ノブを使用してレンズ間の距離を調整して、視界がクリアになるように視度を調整します。



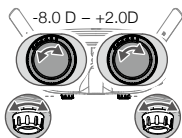
1. 両方のノブを、図で示す方向に回してロック解除します。ロック解除されると、ノブが飛び出します。



2. ノブを左右に回すと、適切な配置で映像が見れるようにレンズ間の距離を調整します。

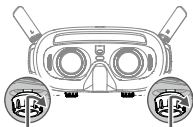


3. ノブをゆっくり回すと、視度が調整されます。対応調整範囲は、 $-8.0\text{ D} \sim +2.0\text{ D}$ です。



- 💡 • 視度調整レンズは、乱視矯正に対応していません。乱視矯正が必要な場合やゴーグルの視度が合わない場合は、別途レンズを購入し、付属のアイグラスフレームを利用して、レンズをゴーグルに装着することができます。詳細については、次のセクションの「アイグラスフレームの使用」を参照してください。
- 最初に視度を調整するときには、実際に使用しているメガネの視度よりも少しだけ弱い視度に調整することをおすすめします。目が順応するまで十分な時間を取り、クリアな視界を得るまで、視度を繰り返し調整してください。目の疲れを避けるため、実際に使用しているメガネの視度より強い視度で使用しないでください。

4. クリアな視界を得られたら、ノブを押し込み、図で示す方向に回すと、レンズの位置と視度がロックされます。

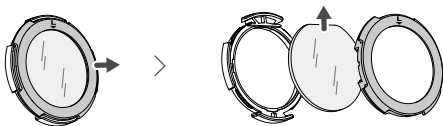


アイグラスフレームの使用

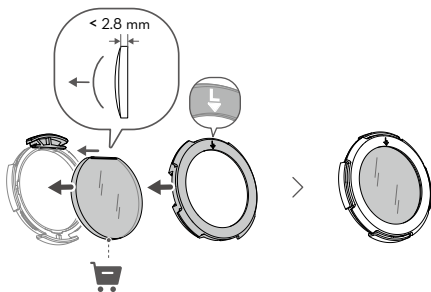
ゴーグルは、 $-8.0\text{ D} \sim +2.0\text{ D}$ の範囲での視度調整に対応し、乱視矯正はできません。乱視矯正が必要な場合やゴーグルの視度が合わない場合、別途レンズを購入し、アイグラスフレームを使用して、レンズをゴーグルに装着することができます。

- ⚠️
- レンズを購入される場合は、眼鏡専門店でアイグラスフレーム（ペア）を持ち込んで、レンズの形状、サイズ、乱視軸、エッジの厚さ(2.8 mm未満) がアイグラスフレームの取り付け要件に合致することを必ず確認してください。
 - 全体視度は、ゴーグルの視度と追加レンズの視度の合計になります。アイグラスフレームの取り付け前に、必ずゴーグルの視度を最初に調整してからノブのロックしてください。

1. アイグラスフレームを取り外し、元々入っていたダミーレンズを外します。

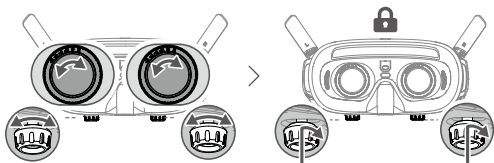


2. 用意したレンズを図のように取り付けます。右レンズと左レンズを間違えないように注意してください。

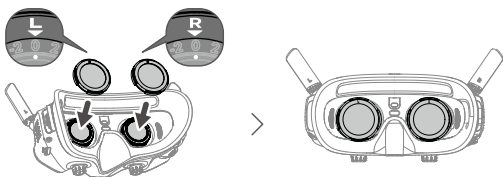


3. 必要に応じて、ゴーグルの視度を調整しノブをロックします。

例えば、もし-6.0 Dのレンズを普段使用していてご自身で用意したレンズが-3.0 Dであれば、アイグラスフレームをゴーグルに取り付けたときに全体視度が-6.0 Dになるように、ゴーグルの視度を-3.0 Dに調整する必要があります。



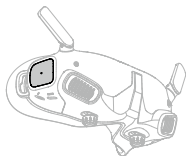
4. 左右のフレームをゴーグルに取り付けます。取り付け時には、フレーム上部のマークが上向きになっていること、三角形の矢印がゴーグルレンズの上端の白点と合わさっていることを必ず確認します。



⚠ 取り付けしたレンズが乱視矯正に対応している場合は、アイグラスフレームの取り付け後はノブを回さないでください。回してしまうと、乱視軸がずれ視界がぼやけてしまう可能性があります。アイグラスフレームの取り付け前に、必ずゴーグルの視度を最初に調整してください。

DJI Goggles 2

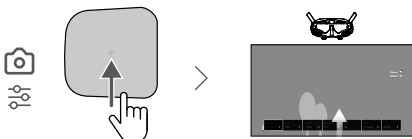
タッチパネルの使用



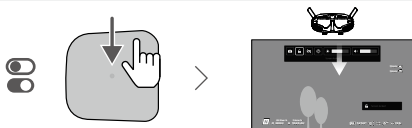
タッチパネルの使用により、片手で操作することができます。

- ⚠ モーションコントローラー使用時の飛行安全性を確保するため、ゴーグルのタッチパネルを操作する前にブレーキボタンを1回押してブレーキをかけて、ホバリングさせてください。これを行わなければ、安全性のリスクが高まり、機体の制御できなくなったり、周囲の人の怪我を誘発する要因となります。

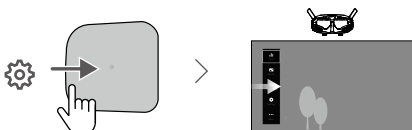
下から上へスワイプ：[カメラ設定]に移動




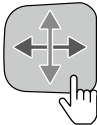
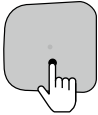
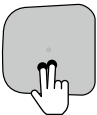
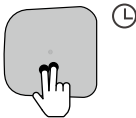
上から下にスワイプ：[ショートカットメニュー]に移動



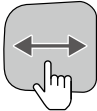
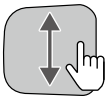
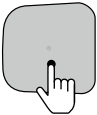
左から右へスワイプ：[メニュー]に移動




 メニューへの入り方を、右から左へスワイプに変更することができます。変更するには、メニューから[設定]、[操作]の順に選択し、そして[水平スワイプを反転]を選択します。


上／下／右／左へのスワイプ：メニュー内の移動	1回のタップ：確定／選択
	
2本指でタップ：戻る	ホーム画面上を2本指で長押し：画面のロック／ロック解除
	

動画再生中に：

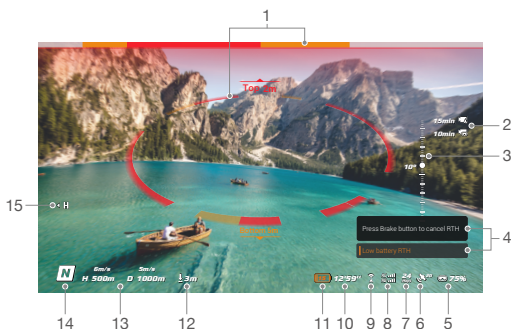
左右にスワイプ：プログレスバーを操作	上下にスワイプ：ボリュームの調整
	
1回タップ：一時停止／再生	
	

 タッチパネルを操作するときには、機能の精度を最大限発揮できるように、ゆっくりと正確にスワイプしてください。

ゴーグルのホーム画面とメニュー

 実際の画面やメニューオプションは、本マニュアルの記述と異なる場合があります。また、使用する機体、使用可能な機能、ゴーグルのファームウェアバージョンにより異なります。

ホーム画面



1. 障害物検知ステータス（障害物検知機能のある機体でのみ使用可能）

機体と障害物との間の距離、および障害物のある方向を示します。バー上の赤色、オレンジ色、灰色は、障害物までの相対距離（近距離～遠距離）を示します。赤色は機体近くに障害物があるときに表示され、オレンジ色は障害物が検知範囲内にあるときに表示されます。灰色は検知範囲内に障害物がないことを示します。



画面上の障害物検知ステータスの表示は機体ごとに異なります（最上部のバーや中央部の円環など）。

2. microSDカード 情報

機体またはゴーグルのmicroSDカードの撮影可能枚数や録画可能時間を表示します。録画中、録画時間を表示するアイコンは点滅表示されます。



録画中、microSDカードの挿入や取り出しを絶対に行わないでください。データやシステムファイルがなくなったり、破損したりする恐れがあります。

3. ジンバル スライダー

ジンバルダイヤルを回すと、ジンバルのチルト角が表示されます。

4. プロンプト

新しいモードが適用されたときや、バッテリー残量が低下しているときなどに、その通知や情報を表示します。

5. ゴーグルのバッテリー残量

ゴーグルの現在のバッテリー残量を表示します。

6. GPSの信号強度

現在の機体のGPS信号強度を表示します。

デバイスが長時間使用されていなかった場合、GPS信号の検索に通常より時間がかかることがあります。短時間でデバイスの電源をオン／オフした場合、信号を妨害するものがなければ、GPS信号の検索には約20秒かかります。

7. 動画ビットレート

現在のライブビュー動画ビットレートを表示します。

8. 送信機と動画ダウンリンク信号強度

送信機信号強度（機体～送信機間）と、動画ダウンリンク信号強度（機体～ゴーグル間）を表示します。

9. ビジョンシステム ステータス（障害物検知機能のある機体でのみ使用可能）

ビジョンシステムのステータスを、異なった方向で表示します。ビジョンシステムが正常な場合、アイコンは白色で表示されます。アイコンが赤色表示されている場合、ビジョンシステムが無効になっているか、機体が自動で障害物回避できない状態で異常動作していることを示します。

10. 残りの飛行時間

モーター起動後の機体の残り飛行時間を表示します。

11. 機体のバッテリー残量

12. 地面までの距離

機体が地面から10 m未満の高度で飛行しているときの機体の地面からの現在の高度情報を表示します。

13. フライトテレメトリ

機体とホームポイント間の水平距離 (D) とその速度、垂直距離 (H) とその速度を表示します。

14. フライトモード

現在のフライトモードを表示します。

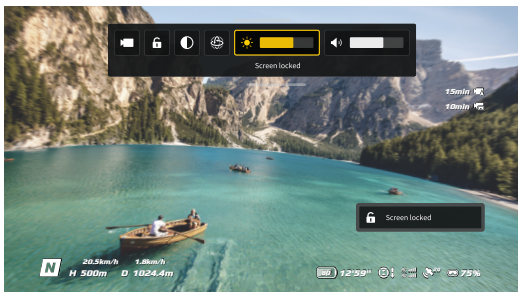
15. ホームポイント

ホームポイントの位置を示します。

ゴーグルと機体との接続が切断されていて、しばらく使用していない場合、ゴーグルはスクリーンセーバーを表示します。スクリーンセーバーを解除するにはタ

タッチパネルをタップします。ゴーグルを機体と再接続すると、映像伝送が復帰します。

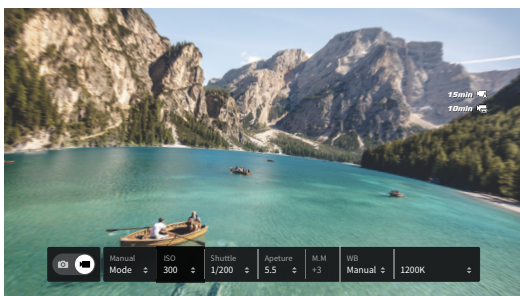
ショートカットメニュー



タッチパネルの上から下にスワイプすると、[ショートカット]メニューに移動して、以下の機能を実行します。

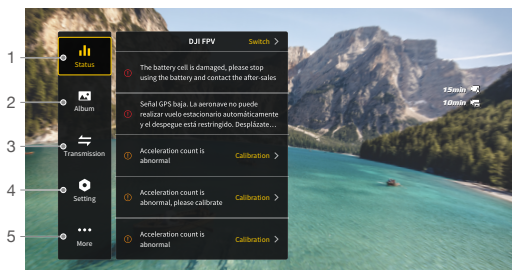
- 写真を撮影するか、動画の録画を開始／停止します
- 画面をロック／ロック解除
- エンハンス表示の有効化／無効化
- ヘッドトラッキングを有効／無効
- 明るさの調整
- 音量の調整

カメラ設定



タッチパネルの下から上へスワイプすると、[カメラ設定]に移動しカメラパラメーターを素早く変更できます。

メニュー



タッチパネルの左から右へスワイプすると、ゴーグルメニューが開きます。

1. ステータス

使用中の機体モデルとプロンプト警告の詳細情報を表示します。機体を変更するには、右上隅の切り替え機能を使用します。

2. アルバム

ゴーグルのmicroSDに保管された写真または動画を表示します。プレビューする任意のファイルを選択します。

3. 伝送

伝送メニューには、[パイロット]サブメニューと[オーディエンス]サブメニューがあります。

- 現在のデバイスに対する映像伝送モードの設定は、[パイロット]サブメニューで行えます。設定できる内容は、以下のものを含みますが、これに限定されません。
 - a. 配信モードの有効または無効（特定の機体のみ対応）。配信モードが有効になると、デバイス番号が表示されます。これにより、他のデバイスがそのデバイス番号でチャンネルを見つけて入り、カメラビューを見ることができます。
 - b. フォーカスモードをオン、オフ、自動に設定します。
 - c. チャンネルモードを自動または手動に設定します。自動を選択することをお勧めします。これにより映像伝送は2.4 GHzと5.8 GHzの周波数帯域を自動的に切り替え、最良の信号のチャンネルを選択します。（日本国内は2.4GHzのみ使用可能）
 - d. 周波数帯を設定します。チャンネルモードが手動で設定された場合は、2.4 GHzと5.8 GHzのどちらかを選択できます。（日本国内は2.4GHzのみ使用可能）
 - e. 映像伝送の帯域幅を設定します。使用可能なチャンネル数は帯域幅によって変わります。最良の信号強度を受信できるチャンネルは手動で選択できます。
帯域幅が広いと、それだけその帯域幅を占有する、より多くの周波数帯を受信します。これにより映像伝送レートが向上し、画像品質


がより鮮明になります。ただし、無線干渉の可能性も高まり、収容可能な機材の数がより制限されます。多人数でプレイする競技会で干渉を避けるには固定した帯域幅とチャンネルを手動で選択してください。

- 配信モードがオンになっている映像伝送デバイスが近くにある場合、デバイスとその信号強度を[オーディエンス]サブメニューで確認することができます。チャンネルを選択して、カメラビューを見ます。

4. 設定

- 安全性
 - a. 最大飛行高度、最大飛行距離、RTH高度などの安全に関する設定を行います。必要な場合は、ホームポイントの更新、障害物回避挙動の設定、IMUとコンパスステータスの確認とキャリブレーションをすることもできます。
 - b. [ドローンを探す]は、Googleで取得したキャッシュ動画を使用し、地上にある機体の位置を見つけるのに役立ちます。
 - c. [高度安全設定]には、機体信号が失われた時の動作、AirSenseの有効／無効設定、緊急プロペラ停止が含まれています。送信機からの信号を機体が喪失時に、機体がホバリング、着陸もしくはRTHするように設定できます。緊急プロペラ停止が有効な場合、モーションコントローラのロックボタンを2回押す、もしくは送信機でコンビネーションスティック コマンド (CSC) を実行することにより、飛行中いつでもモーターを停止できます。緊急プロペラ停止が無効な場合、衝突の発生、モーター停止、空中での機

体のローリング、機体の操縦不能、急激な上昇／降下などの緊急時の制御アクションと同じ操作によってのみ、飛行中にモーターを停止できます。


 飛行中にモーターが停止すると、機体は墜落します。

- 制御

- a. スティックモード、特定ボタンのカスタム機能、IMUやコンパスのキャリブレーションなどの送信機関連機能を設定してください。
- b. モーションコントローラーをキャリブレーションするか、そのチュートリアルを確認する。
- c. ジンバルをキャリブレーションするか、ジンバルのチルト速度を調整する。
- d. タッチパネルに対し、水平スワイプの方向を反転させる。
- e. ゴーグルのチュートリアルを表示する。

- カメラ

- a. 伝送する動画のスペック、フォーマット、グリッド線、画面中心点の有効／無効の設定をしたり、microSDカードのフォーマットを実行したりできます。

 フォーマット後にはデータを回復できないことを考慮し、慎重に操作してください。

- b. [カメラ詳細設定]では、録画デバイス、ストレージ、カラー、ちらつき防止を設定でき、さらに歪み補正を有効／無効に設定できます。

- c. [カメラパラメーターをリセット]を選択すると、すべてのカメラ設定をデフォルトに戻すことができます。

- 画面

画面の輝度、ズーム、ホームポイントの表示／非表示を調整できます。

- 詳細情報

- a. シリアル番号またはゴーグルのファームウェア、リンクされているデバイスなどのデバイス情報を表示します。
- b. システム言語を設定します。
- c. [全てリセット]を選択すると、ゴーグルおよびリンクされているデバイスがデフォルトの状態にリセットされます。


5. さらに表示

- ワイヤレス ストリーミング機能を有効にし、モバイル端末で再生している動画をゴーグル画面に投影します（動画を再生するデバイスがワイヤレス ストリーミング機能に対応している必要があります）。

機体の切り替え

機体を切り替えるには、ゴーグルのメニューを開き、[ステータス]を選択し、次に[切り替え]を選択して使用したい機体を選びます。画面上の指示に従って変更を完了してください。

ヘッドトラッキング機能の使用

ヘッドトラッキング機能は、特定の機体のみがサポートしている機能で、ゴーグルのショートカットメニューで  をクリックすることにより有効にできます。

ヘッドトラッキングを有効化した後は、頭部の動きにより、機体の水平方向とジンバルのチルトを制御できます。送信機デバイスは、機体の飛行経路のみを制御します。ジンバルは、送信機デバイスでは制御できなくなります。

ワイヤレスストリーミング機能の使用

ワイヤレスストリーミング機能を使うと、スマートフォンやパソコンで再生している動画をゴーグル画面に映すことができます。この機能を使用するには、動画プレイヤーがワイヤレスストリーミングに対応している必要があります。

この機能を使用するには、ゴーグルのメニューを開き、[さらに表示]を選択し、次に[ワイヤレスストリーミング]をタップして画面上の指示に従います。

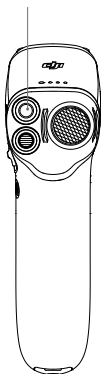
DJI モーションコントローラー

機体の制御

モーションコントローラーには、ノーマルモードとスポーツモードの2種類のモードがあります。デフォルトでは、ノーマルモードが選択されています。

ロックボタン

ロックボタン



離陸：

2回押すと、機体のモーターを起動します。長押しすると、機体が自動で離陸し、約1.2 mまで上昇し、その場でホバリングします。

着陸：

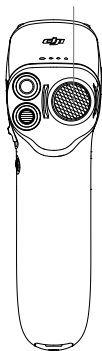
機体がホバリング中に長押しすると、機体が自動着陸してモーターが停止します。

ゴーグルにカウントダウンが表示されたとき（バッテリー残量低下によるRTH）、1回押すとローバッテリーRTHをキャンセルします。

⚠ 重度のバッテリー残量低下での着陸はキャンセルできません。

ブレーキボタン

ブレーキボタン



制動：

1回押すと、機体の動作にブレーキがかかり、その場でホバリングします。もう1回押すと、ブレーキは解除されます。

RTH：

モーションコントローラーからビーブ音が鳴るまでブレーキボタンを長押しすると、RTH（Return-to-Home：帰還）が起動します。機体がRTHまたは自動着陸を実行中に、ボタンを1回押すとRTHまたは着陸をキャンセルします。

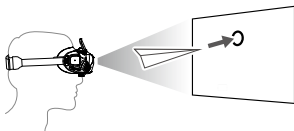
モーションコントロール





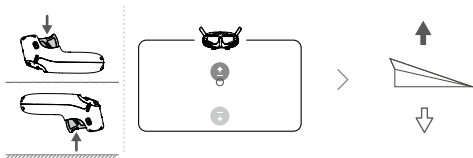
初めて使用する前に、DJI Virtual Flightを使用してモーションコントローラーで飛行練習をしてください。

スピード制御： アクセルを押すと、ゴーグル上でサークルが表示されている方向へ飛行します。

強く押し込むと、加速します。離すと、停止してホバリングします。

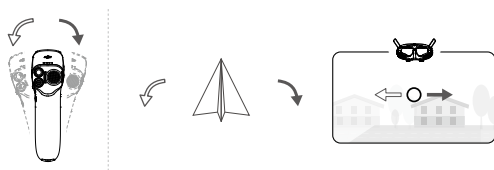


上昇／下降： 機体の上昇と下降を制御するには、まずモーションコントローラーを上または下に90° 傾けます。一旦、ゴーグルの画面上の丸が上昇または下降  下降  アイコンに入ったら、アクセルを押して機体を上昇もしくは下降させてください。

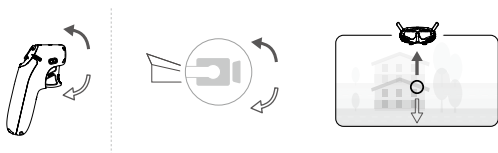


方向制御： 機体の方向はモーションコントローラーを左右に傾けることによって制御できます。左に傾けると機体は反時計回りに回転し、右に傾けると時計回りに回転します。ゴーグル内の画面に表示されるサークル (円) が左右に動き、それに応じて映像伝送の画面も変化します。

モーションコントローラーの傾斜角が大きくなるほど、機体の回転は速くなります。

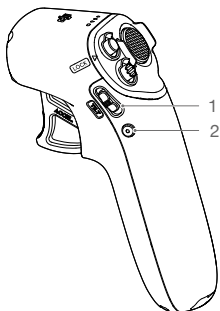


ジンバルの制御： ジンバルのチルトを制御するにはモーションコントローラーを上下に傾けます。ゴーグル内のサークルは上下に動き、それに応じて映像伝送の画面も変化します。



ジンバル&カメラの操作

1. ジンバルチルトスライダー：上下に押してジンバルのチルトを調整します（離陸前のみ使用可能）。
2. シャッター／録画ボタン：シャッター／録画ボタンを押すと写真撮影または録画の開始／停止を行います。長押しすると、写真モードと動画モードを切り替えます。



モーションコントローラーのアラート

RTH中、モーションコントローラーからアラートが鳴ります。アラートをキャンセルすることはできません。

モーションコントローラーは、バッテリー残量が15%～6%になるとアラートが鳴ります。電源ボタンを押

すことにより、バッテリー残量低下の警告をキャンセルできます。バッテリー残量が5%未満になると重度のバッテリー残量警告が鳴り、これはキャンセルできません。

モーションコントローラーのキャリブレーション

モーションコントローラーのコンパス、IMU、アクセルがキャリブレーションできます。キャリブレーションを促す画面が表示されたら、対応するモジュールのキャリブレーションをすぐ実行してください。

ゴーグルで、[設定]→[制御]→[モーションコントローラー]→[モーションコントローラーのキャリブレーション]に移動します。モジュールを選択し、プロンプトに従ってキャリブレーションを完了します。



- 磁鉄鉱床や大きい金属製建造物（駐車場ビル、鉄筋地下室、橋、車両、足場など）の近くなど、磁気干渉が発生しやすい場所でコンパスのキャリブレーションを行わないでください。
- キャリブレーションを実施する際、携帯電話などの強磁性物質を含むものを機体の近くに絶対に持ち込まないでください。

ファームウェア更新

以下の方法のいずれかを使用して、ファームウェアを更新します。

1. 機体、ゴーグル、モーションコントローラーを含むデバイス一式のファームウェアを更新するには DJI Flyアプリを使用します。
2. 1つのデバイスのファームウェアを更新するには、DJI Assistant 2（一般向けドローン用）を使用します。

DJI Flyの使用

機体、ゴーグル、モーションコントローラーの電源を入れます。すべてのデバイスがリンクされていることを確認します。ゴーグルのUSB-Cポートとモバイル端末を接続し、DJI Flyを起動し、プロンプトの指示に従って更新を行います。更新中は、モバイル端末がインターネットに接続されていることを必ず確認してください。



- USB-AからUSB-Cに変換して使用する場合には、付属のUSB-C OTGケーブルを使用して接続してください。
- 本ゴーグルは標準USB-CプロトコルとMFI認証済みLightningケーブルのみに対応しています。標準ケーブルではないケーブルには、対応していません。接続してもデバイスが反応しない場合、別のデータケーブルを使用してみてください。

DJI Assistant 2（一般向けドローン用）の使用

1. デバイスの電源を入れます。USB-A - USB-Cケーブルで、ゴーグルのUSB-Cポートをパソコンに接続します。



DJI Goggles 2は、USB - USB-Cケーブルを介したパソコンへの接続には対応していません。

2. DJI Assistant 2を起動し、DJIアカウントでログインします。
3. デバイスを選択し、画面左側にある「ファームウェア更新」をクリックします。
4. ファームウェアを選択します。
5. ファームウェアのダウンロードと更新が自動的に行われます。
6. ファームウェア更新が完了すると、デバイスが自動的に再起動します。

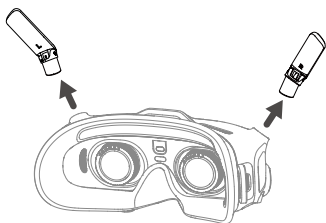
-
- ⚠️ • 必ず記載されている全ての手順に従って、ファームウェアを更新してください。手順に従わない場合には更新に失敗する場合があります。
- ファームウェアの更新には数分かかります。更新中に画面が消えたり、ゴーグルが自動的に再起動することがありますが、これは正常です。ファームウェア更新が完了するまでしばらくお待ちください。
 - 更新中はパソコンがインターネットに接続されていることを必ず確認してください。
 - ファームウェア更新前に、デバイスに十分なバッテリー残量があることを必ず確認してください。
 - 更新中は、USB-Cケーブルの接続を外さないでください。
 - 更新によりパラメータがリセットされる場合があります。ご注意ください。更新の前に、ユーザー側で変更した設定内容を別途記録し、更新が完了したら再度設定し直してください。
-

メンテナンス

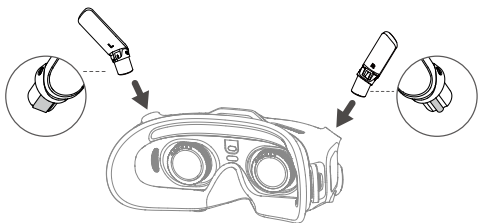
アンテナの交換

アンテナが損傷したときは、DJIのアフターサービスに連絡して新品を購入し交換してください。

アンテナを外すには、アンテナの根元を持って上に引き上げます。

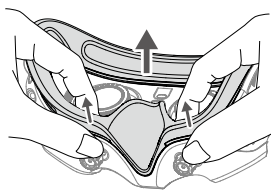


取り付ける時は、左右のアンテナを区別して、必ずアンテナをポートに対して適切な位置に合わせた上で、取り付けてください。

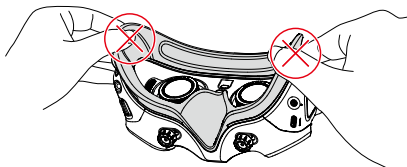


フォームパッドの交換

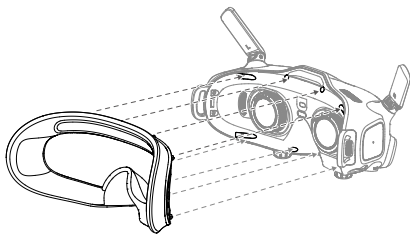
1. フォームパッドの底部を持ち、以下の図で示すようにやさしく取り外します。



- ⚠ フォームパッドの取り外し時には両側を引っ張らないでください。引っ張ると、パッドが破損する恐れがあります。



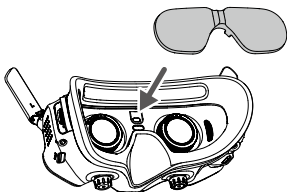
2. 図のように、新しいフォームパッドの位置決め用の突起部をゴーグルの位置決め用の穴と揃えて、左右両側を押して取り付けます。「カチッ」という音がした後に、フォームパッドとゴーグルの間に隙間がないことを必ず確認してください。



レンズの清掃とメンテナンス

柔らかく乾いた清潔な布切れを使用し、各レンズの中心から端に向けて円を描くようにして拭きます。

- ⚠ • 清掃の前に、必ずゴーグルを電源コンセントから抜き、ケーブルが接続されていないことを必ず確認してください。
- レンズの清掃にアルコールを使用しないでください。
- レンズの取り扱いには注意が必要です。優しく手入れしてください。視界品質に影響を及ぼすことがあるので、レンズをこすらないでください。
- 高温や湿度の高い環境によりレンズや他のコンポーネントが損傷しないように、ゴーグルは室温の乾燥した場所で保管してください。
- 画面の損傷を防ぐためレンズを直射日光に当てないでください。ゴーグルを使用していないときは、レンズを保護するために画面プロテクターを再度取り付けてください。



付録

仕様

最新の仕様については、DJI公式サイトをご覧ください。

<https://www.dji.com/goggles-2/specs>

DJI Goggles 2	
モデル番号	RCDS18
重量	約290 g (ヘッドバンドを含む)
サイズ	167.40×103.90×81.31 mm (アンテナ折りたたみ時)
	196.69×103.90×104.61 mm (アンテナ展開時)
画面サイズ (一画面)	0.49インチ
解像度 (一画面)	1920×1080 p
フレームレート	最大 100 Hz
IPD範囲	56～72 mm
視度範囲	+2.0 D～-8.0 D
FOV	51°
伝送	異なる機体で使用する場合、ゴーグルは、使用する機体の伝送仕様に対応するファームウェアを自動的に選択します。
	2.4000～2.4835 GHz
動作周波数	5.725～5.850 GHz (日本を含む一部の国／地域では使用不可)
伝送電力 (EIRP)	2.4 GHz : < 30 dBm (FCC)、 < 20 dBm(CE/SRRC/MIC (日本) /KC)
	5.8 GHz : < 30 dBm (FCC)、 < 23 dBm (SRRC)、< 14 dBm (CE/KC)
遅延 *	1080p@100fps: 30 ms
	1080p@60fps: 40 ms
最大動画ビットレート	50 Mbps
Wi-Fi プロトコル	Wi-Fi 802.11b/a/g/n/ac
	2.4000～2.4835 GHz
動作周波数	5.150～5.250 GHz (屋内使用のみ、一部の国／地域では利用不可)
	5.725～5.850 GHz (一部の国／地域では利用不可)

	2.4 GHz : < 20 dBm (FCC/CE/SRRC/MIC (日本) /KC)
伝送電力 (EIRP)	5.1 GHz : < 20 dBm(FCC/CE/MIC (日本) /KC) 5.8 GHz : < 20 dBm (FCC/SRRC/KC)、 < 14 dBm (CE)
Bluetooth	Bluetooth 5.2
動作周波数	2.4000~2.4835 GHz
伝送電力 (EIRP)	<8 dBm
対応動画録画フォーマット	MOV
対応動画再生フォーマット	MP4、MOV (動画フォーマット: H.264、H.265、オーディオフォーマット: ACC、PCM)
Wi-Fiワイヤレスストリーミング	DLNA
動作環境温度	-10℃~40℃
電源入力	DJI Goggles 2 バッテリー
対応SDカード	microSDカード、最大256GB
推奨microSDカード	SanDisk Extreme U3 V30 A1 32 GB microSDXC SanDisk Extreme Pro U3 V30 A1 32 GB microSDXC Kingston Canvas Go!Plus U3 V30 A2 64 GB microSDXC Kingston Canvas React Plus U3 V90 A1 64 GB microSDXC Kingston Canvas React Plus U3 V90 A1 128 GB microSDXC Kingston Canvas React Plus U3 V90 A1 256 GB microSDXC Samsung PRO Plus V30 U3 V30 A2 256 GB microSDXC
DJI Goggles 2 バッテリー	
重量	約122 g
サイズ	73.04×40.96×26 mm
容量	1800 mAh
電圧	7~9 V = 1.5 A
種類	Li-ion
材料	LiNiMnCoO ₂
電力量	18 Wh
充電温度範囲	0℃~45℃
最大充電電力	12.6 W (5 V = 2 A / 9 V = 1.4 A)
動作時間	約2時間 (飛行時)

DJI モーションコントローラー

モデル番号	FC7BMC
重量	約167 g
動作周波数	2.4000～2.4835 GHz、 5.725～5.850 GHz（日本を含む一部の国／地域 では使用不可）
伝送電力 (EIRP)	2.4 GHz：≤28.5 dBm (FCC)、 ≤20 dBm (CE/SRRC/MIC（日本）) 5.8 GHz：≤31.5 dBm (FCC)、 ≤19 dBm (SRRC)、≤14 dBm (CE)
動作環境温度	-10℃～40℃
動作時間	約5時間

* 干渉のない広く開けたエリアで測定。実際の遅延は機体により異なります。

アフターサービス情報

アフターサービスポリシー、修理サービス、サポートについては、<https://www.dji.com/support>をご覧ください。

本内容は予告なく変更される場合があります。

最新版は下記よりダウンロードしてください

<https://www.dji.com/goggles-2>

商標

dji はSZ DJI TECHNOLOGY CO., LTD.（以下「DJI」と省略）およびその関連会社の商標です。

本書に記載されている製品、ブランドなどの名称は、その所有者である各社の商標または登録商標です。